

山行番 NO. 1648
日時 2015. 6. 28 (日) 晴 前回=2013. 9. 23 (月、祝日) 晴
山域 南八ヶ岳・阿弥陀岳中央稜 (2805m)
標高差 上り=舟山十字路1619m~阿弥陀岳2805m=1186m
下り= 同上
参加者 後藤、勝又陽、井上=3名

5:00 長泉町出発。目的の山は天気予報に翻弄され、鶏冠山がリバーウォーク、富士山になり、車中で花のいい八ヶ岳に決定した。八ヶ岳のどの山か決めかねながら車は進んでいった。男3人の車中は会話が少なく、爆睡してしまった。

運転手の後藤さんすいません。気づいたら、阿弥陀岳中央稜の登り口だった。ほんとにすいません。

7:17 舟山十字路に駐車、標高1619m、7:22 スタート。林道のゲートを越えて、しばし林道を歩く。2年前に来たのに見覚えがない。前回と違ふとりつきとなる。2mほどの高さの堰堤を降りるときは数センチ飛び出た何本かのボルトに足を置かなければならず難儀した。

沢を詰め、上がる尾根を確認して道を探した。とにかく容赦なく登り続ける。前々日の飲み会のために睡眠時間が不足気味かもしれない。息が切れる。頭の中で、「歩け、登れ」と言いながら、ひたすらに登る。月イチの山登りでこういう登りはきつい。傾斜がきついため、登りの間、目の前に様々な花が現れ応援してくれる(と勝手に感じる)。特にイワカガミの濃いピンク色は鮮やか。白や黄色の花がたくさん咲いており、気を付けないと踏んでしまいそう。

10:59 阿弥陀岳頂上2805m到着。昼食休憩。ビールがしみた。疲れのため、食欲はあまりない。人はまばらで、我々3人だけになる時もある。独り占め感たっぷり。天気も最高で、北アルプス以外はぐるり360度見渡せる。梅雨の晴れ間ですごく得をした気分だ。後藤さんは15分昼寝実行。

11:55 下山開始。切り立った岩場にたつと、下半身がちぢこまる。ここでビビるとたちが悪い。この後のガレ場を下る時にもビビってしまい、後れを取る。設置されたロープを使って下る時も腰が引けてしまう。直径20センチくらいの石を落してしまい、後藤さんのおしりに直撃してしまった。



広河原橋



蓮華躑躅



厄介な堰堤



急登が続く



権現岳方面



13:25 御小屋山頂上 2136.7m 通過。このピークのため登り返しがあり、脚が悲鳴を上げる。長い下りを歩く。ひざはがくがく、筋肉はパンパン。腰も肩も痛かった。

14:17 船山十字路駐車場に到着。帰路、御坂でトウモロコシを購入。私は初めて焼きトウモロコシを買って食べたが、プチプチと新鮮でとても甘かった。東富士道路で渋滞にはまる。17:00 長泉着。

筆者余談

前回 2013 年 9 月 23 日は 4 名（内 1 人女性）で、登り 3 時間 19 分、下り 3 時間 2 分。下りはジゴボウなどのキノコを探しながらだったので時間がかかっている。今回は、登り 3 時間 37 分、下り 2 時間 22 分。登りが前回より時間がかかっているのには驚いた。女性の参加が、山登りには重要な要素だということがわかった。

まず第 1 に、車中のおしゃべりが少なく、男どもは寝てしまい、運転手がたいへん。2 番目に、登りも下りも話すことがなくつまらないし、時間がたつのが遅い。おしゃべりしながら登ればつらさも減る。景色の良い所でもあっさりとして、感動を語り合う時間が少ない。

花を見ても、女性がいれば「この花は何て名前ですかあ」と質問があり、後藤さんも詳しく説明をするが、男だけだと何事もなく通り過ぎてゆくのだ。男 3 人は終始無口で、聞こえるのは体の悲鳴だけだった。

3 番目は、これは男性全員ではないかもしれないが、女性がいるとカッコいいところを見せようと虚勢を張ってしまう。すると自然に足も上がる。女性のみなさん、これからもよろしく願います。さわやかハイク、裾野レイホーは、女性の参加が大切です。



南稜の向こうに富士

上る上る





深山塩釜



深山金梅 (盃)



白山一華



岩梅



深山大根草



岩鏡



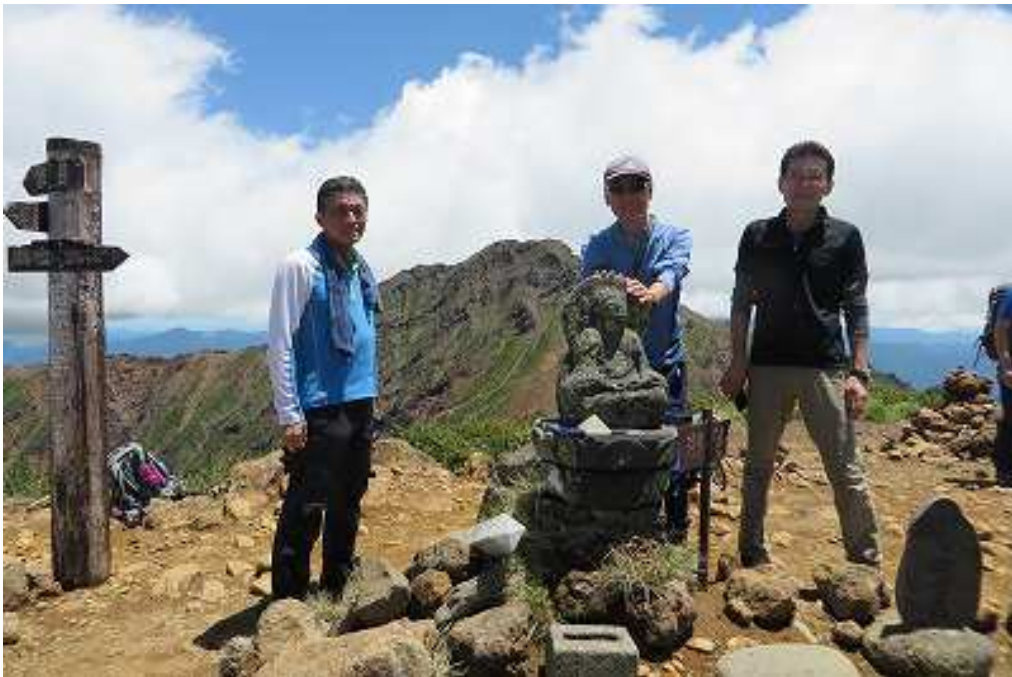
摩利支天



阿弥陀岳



赤岳



参考

過去の阿弥陀岳中央稜＝時間の比較

上り

2007. 09. 23	3 : 25
2013. 09. 23	3 : 19 (4名中、2名は前泊)
今回	3 : 37

下り

2013. 09. 23	3 : 02 (キノコ狩りあり)
今回	2 : 22

以上